


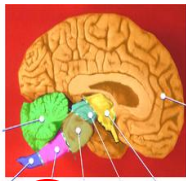


<p>化学療法（悪性腫瘍） （俗に：ケモ）</p>	<p>がんの化学療法に抗がん剤がある。がん細胞に直接または間接的に作用して、がん細胞の増殖を抑制し、死滅させる薬剤。投与方法は、直接血管内に抗がん剤を投与する点滴による静脈注射と錠剤の飲み薬がある。抗がん剤は、がん細胞だけでなく、正常細胞のうちでも細胞分裂の早い細胞にもその毒性影響を及ぼすため、白血球減少・脱毛・吐き気などの副作用を起こす。</p> <p>付記（ケア・イト） 悪性腫瘍以外に、感染症、自己免疫疾患の治療にも用いられます。</p>
<p>カニューレ</p>	<p>体腔内に挿入するチューブ類の総称で、薬液の注入や体液の排出、気管切開の際の空気の通路とする場合などに用いるパイプ状の医療器具のこと。</p> <p>付記（ケア・イト） 在宅では、気管カニューレ(カフの項目参照)、酸素カニューレ（在宅酸素療法の項目参照）を使用している利用者が多い。</p>
<p>カフ</p>	<p>気管カニューレが外れないように、気管とカニューレの管との隙間を埋めるためのドーナツ状のパッキング。風船のように、空気（エア）の調整で隙間ができないように、あるいは簡単に抜けないように生体にフィットさせる。</p> <div data-bbox="874 577 1171 712" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>カフの部分。 気管とカニューレに隙間ができないようにエアを入れて風船状にしている。圧が強すぎても、低すぎても弊害が起きる。</p> </div>  <p>付記（ケア・イト） 空気量(圧)は多すぎても、風船が圧迫している場所の血流障害が発生、壊死(腐る)することがある。少なすぎても唾液が気管に入り肺炎を起こす場合もある。カフが動いて同じ場所に摩擦が加わると潰瘍(ただれ・傷)になる場合がある。カフなしの気管カニューレもある。</p> <div data-bbox="1050 936 1187 972" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>カフなし</p> </div> 
<p>緩和ケア</p>	<p>完全な治癒が望めない患者さんに対して、生命の持続よりも、身体的な痛みや精神的な苦痛を和らげることに重点をおいた医療。</p> <p>付記（ケア・イト） 末期がん患者などに対して行われるが、全人的（身体・(社会・心理・経済など様々な視点から人間を捉える)苦痛を緩和するのが最大の目的。</p>
<p>気管切開 （俗に：気切）</p>	<p>通常、口・鼻から呼吸をすることができなくなった時(病気の進行、気管内挿管の長期化など)、肺に空気を送ったり痰を吸引するために、喉の位置を切開して気管に穴を開ける手術をし、開口部にカニューレを装着する。</p> <p>*永久気管孔もあるが、切開とは異なり手術によって喉頭を取り除いた場合に、気管を首に開放する手術がされている。カニューレはないが、孔への異物の進入防止、加湿目的のためのエプロンなどの使用が必要。</p> <p>付記（ケア・イト）</p> <div data-bbox="927 1473 1155 1532" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>気管切開部に、カニューレが入っている状態</p> </div> 
<p>喀痰吸引 （俗に：きゅうたん）</p>	<p>咳とともに吐き出される痰のことを喀痰といい、その痰を機械によって吸引する行為をいう。例えば、神経難病であるALS（筋萎縮性側索硬化症）患者さんは、自分の唾液の飲み込みができず痰を吐き出せないため、人工呼吸器を装着した場合には30分に1度程度の割合で喀痰吸引を行わなければならないとされているが個々で違う。</p> <p>付記（ケア・イト） 介護職員等が喀痰吸引を実施するには、登録研修機関で研修を受けたのち認定証の交付がある。その後、所属する事業所が登録届けを提出し、始めて介護職員による喀痰吸引が可能となります。</p>
<p>球麻痺</p>	<p>延髄の脳神経が障害され、食べ物をかんだり飲んだりすることや発声・発語に障害をきたす。</p> <div data-bbox="991 1823 1294 2040" style="text-align: center;">  <p>小脳 大脳 脊髄(延髄) 橋 中脳 間脳</p> </div> <p>付記（ケア・イト） 代表的な病気には、筋萎縮性側索硬化症、ギラン・バレー症候群、多発性硬化症、重症筋無力症があります。</p>